

令和二年 新年あいなづ



芦風荘 施設長 横田 教介



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃より「芦風荘」の運営に温かいご支援ならびにご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。皆様方のお力添えをいただき、無事に新春を迎えることができましたことに重ねて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、京都清水寺の森清範せいはいんかんす貫主による2019年の世相を表す漢字として揮毫発表されました漢字は「令」でした。新天皇即位による新元号「令和」が発表され、新たな時代の幕開けとともに明るい未来への希望を感じた一年でした。一方で、法令改正により消費税増税が実施されたことや、台風襲来等の自然災害による警報・避難勧告の発令、また企業や芸能界の不祥事による法令遵守への重要視などから「令」の一字が最も多い応募漢字となったようです。

さて、令和二年を迎えまして、福祉業界を取り巻く環境は益々厳しいものとなっております、とりわけ「人材不足」が喫緊課題であることに変わりはありません。日本の人口や社会構造等の変化により、業界環境はめまぐるしく変化しておりますが、業界自体の人材不足を嘆くだけでなく、人材確保や定着率の向上等に向け、更に知恵を絞り出しながら、「魅力ある職場づくり」に引き続き取り組んで参ります。また、芦風荘が掲げる介護理念「自分らしく生き生きと」を念頭に、ご利用者の皆様の、より良い「暮らし」を施設職員ワンチームとなって推し進めて参りますので、今まで以上に指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、今年の干支は「子」です。年のいわれは諸説ありますが、「可能性のある未来に向かって伸びる年」と言われています。世界的なイベントでは東京オリンピックの開催年でありますが、兵庫県尼崎市では姉妹施設である西長洲荘が本年三月一日に開設二十周年を迎え、芦風荘におきましては開設八周年を迎えさせていただきます。地域の皆様に支えられて歩んできた感謝の気持ちを胸に刻み、地域に愛される施設づくりを引き続き努力して参ります。ご利用者の皆様をはじめ、ご家族の皆様、芦風荘に関わる全ての方々のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。